

令和2年度 明石市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和3年5月
明石市(兵庫県)

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間:平成28年4月～令和3年3月(5年)

1 計画期間終了後の市街地の概況

明石市中心市街地活性化基本計画(平成28年3月15日内閣総理大臣認定)は、「海・食・時」のまちに更なる魅力を創造し賑わいあふれるまちへ」を基本コンセプトとし、前認定基本計画同様「便利で暮らしやすいまち」「一歩足を伸ばして楽しめるまち」を重点目標に設定し、行政と民間が協働しながら中心市街地の活性化に取り組んできました。

令和2年度は計画期間5年目(最終年度)で、本計画の核事業である「明石駅前南地区第一種市街地再開発事業」が完了し、「明石駅前再開発ビル(パピオスあかし)」の全面オープンから4年が経過しました。令和2年度も「パピオスあかし」オープン当初のにぎわいを継続させるため、まちづくり会社、商業者などと連携し、多くのソフト事業を展開していく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛による来街者の減少に加え、多くのイベントが中止になり、時短営業、臨時休業を余儀なくされ、にぎわいの創出が困難な状況でした。

令和2年度の主な事業としてハード面では、「国道2号明石駅前交差点改良」が完了し、国道2号明石駅前交差点の交通渋滞が緩和され、来街しやすい環境となりました。また、時の記念日100周年、天文科学館開館60周年を記念して「あかし子ども広場」に「天文科学館サテライト」を整備しました。

ソフト面では、新型コロナウイルス感染症に対応しながら、工夫を凝らした1年でした。本市は、経営が苦しくなった商業者への支援として「個人商店等緊急支援金事業」「あかし3割おトク商品券事業」「ウイズコロナ感染対策助成事業」などを実施しました。また、「あかし市民図書館」は臨時休館中に「絵本の宅配便」を実施し、「あかし子ども広場」は感染防止対策を徹底し、人数制限を行いながら運営しました。「明石まちなかバル」「時のウィーク2020」など既存のイベントが中止になる中、回遊性向上を図るため「春旬祭」を引き継いだ「スマホで見つけよう!明石キーワード!」を開催するだけでなく、「GOTO商店街事業」を活用した「店舗・店主の魅力を全国に発信!WEBでリアルで明石銀座商店街スタンプラリー!」「GOTO明石ほんまち商店街事業」など新たなイベントを開催しました。

その結果、3つの数値目標のうち、「歩行者・自転車通行量」は目標値を下回ったものの近隣他市よりも減少率が小さく、基準値を上回りました。また、「都市福祉施設利用者数」「新規出店者数」は目標値を上回りました。

現在も新型コロナウイルス感染症の影響によりにぎわいの創出が困難な状況が続いていますが、引き続き、官民が連携し、中心市街地の活性化に取り組んでいきます。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口(基準日:毎年度1月1日)

(単位:人)

	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (最終年度)
人口	7,663	7,697	8,084	8,220	8,345	8,304
人口増減数	207	34	387	136	125	▲41
自然増減数	▲19	24	▲2	▲10	42	▲1
社会増減数	226	10	389	146	83	▲40
転入者数	506	391	598	470	414	381

(2) 地価公示(基準日:毎年1月1日)

(単位:円/㎡)

地価公示拠点 標準値番号	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
①本町1-1-28 【明石5-1】	420,000	430,000	450,000	476,000	505,000	530,000
②本町1-9-28 【明石5-2】	167,000	167,000	167,000	167,000	170,000	174,000
③桜町2-16 【明石5-7】	137,000	137,000	137,000	137,000	137,000	138,000

2 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**【進捗・完了状況】**

①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した ②若干活性化した ③計画策定時と変化なし ④計画策定時より悪化

3 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

本計画に設定した48事業は概ね予定どおり進捗、完了しました。

平成28年度に完了した「明石駅前南地区第一種市街地再開発事業」などのハード事業だけでなく、「B-1 グランプリ in 明石」をはじめとする「市制施行100周年記念事業」など多くのソフト事業を官民協働で取り組んだ結果、計画期間4年目の令和元年度に3つの数値目標をすべて上回りました。また、中心市街地の人口、地価なども増加、上昇し、中心市街地のにぎわいや魅力が向上しました。さらに、本計画に基づく取組は内閣府が取りまとめている「令和元年度フォローアップ好事例取組」として掲載され、再開発事業は「第19回人間サイズのまちづくり賞(ユニバーサル部門)知事賞」「平成29年度市街地再開発事業等功労者表彰」を受賞するなど一定の評価を受けました。

以上のことから、当初の目標を達成し、中心市街地の活性化が図られたと考えています。

4 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**【活性化状況】**

①活性化した ②若干活性化した ③計画策定時と変化なし ④計画策定時より悪化

【協議会の概要】

令和2年度は令和3年2月10日に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言発出期間中であったため、書面会議となりました。

各委員からの主な意見は、次のとおりです。

- ・中心市街地活性化の取組は、来街者が増加し、にぎわいが生まれていることから全国的にみても成功事例であると評価できる。
- ・歩行者・自転車通行量の増加は、「国道2号立体横断歩行者道路整備」の効果が大きい。来街者が「パピオスあかし」を通過して国道2号南側に行くことができる動線にしたことがよかった。国道2号横断者が増加したが、中心市街地南側で通行量が増加していない地点がある。引き続き、中心市街地全体の通行量が増加するよう努力してほしい。
- ・新規出店者数は、新規出店が続いており、コロナ禍でテナントの居酒屋など経営が苦しい店舗が増えているが、他都市と比べて需要が高い印象がある。
- ・明石港周辺は、県と市が一体的に開発を行い、魅力ある拠点を整備してほしい。
- ・当協議会に代わる情報共有の場を年1、2回確保した方がいい。

なお、本協議会は本計画が終了となることを踏まえ、委員の同意を得たことから、令和2年度末をもって解散しました。

5 市民意識の変化

【活性化状況】

①活性化した ②若干活性化した ③計画策定時と変化なし ④計画策定時より悪化

【調査概要】

調査名：来街者アンケート調査

調査日：令和2年10月18日(日曜日)、19日(月曜日)

調査方法：明石駅周辺及び明石公園で対面式のアンケート調査

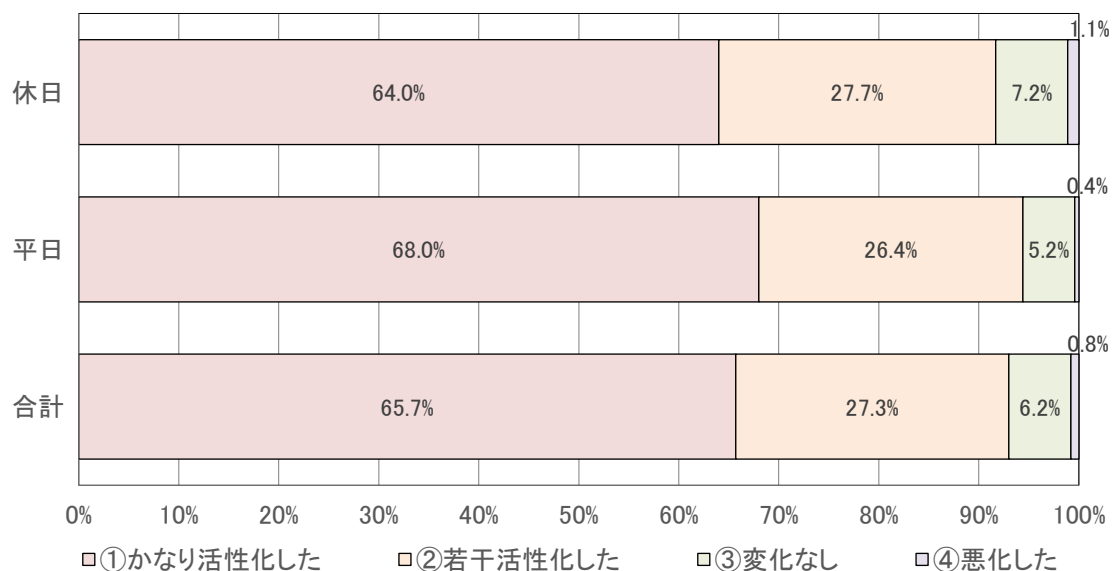
有効サンプル数：499件(18日(日)：266件 19日(月)：233件)

質問内容：再開発前と比べて明石駅周辺(中心市街地)をどのように評価していますか。

選択肢：①かなり活性化した ②若干活性化した ③変化なし ④悪化した

調査結果：「①かなり活性化した」という意見が一番多く、60%を超えました。「②若干活性化した」を合わせると「活性化した」と感じている来街者は90%を超えたことから、再開発前よりも活性化したと感じている人が大多数であることがわかりました。

来街者アンケート調査結果



6 今後の取組

本計画は令和3年3月の計画期間満了をもって終了しました。

今後、ハード面では、中心市街地南側ににぎわい及び回遊性の向上に寄与する新たな拠点を形成するため、市役所新庁舎の整備及び明石港東外港地区の再開発が計画されています。

ソフト面では、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となりましたが、令和4年秋に中心市街地南側の明石港ベランダ護岸などで「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」が開催される予定で、令和3年10月に「1年前プレイベント」が開催される予定です。

以上のことから、本市のシンボルである「海のまち、魚のまち」をいかしたまちづくりは、まだまだ高い可能性があります。引き続き、本市のまちづくり方針、上位計画の「長期総合計画」「都市計画マスタープラン」などを踏まえ、本計画に基づきこれまで蓄積した資源を活用しながら、官民一体となって新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前のにぎわいを取り戻し、そのにぎわいを市内全域に波及させ、市内全域の均衡ある発展を図っていきます。

また、中心市街地のにぎわいの指標である「歩行者・自転車通行量」を本計画終了後も継続して調査し、引き続き目標指標に基づく評価を行っていきます。

II 目標ごとのフォローアップ結果

1 各目標の達成状況

(1) 目標指標

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値	達成状況
便利で暮らしやすいまち	都市福利施設利用者数(人/年)	452,001 (H26)	900,000 (R2)	810,400	937,594 (R2)	A
一歩足を伸ばして楽しめるまち	歩行者・自転車通行量(人/日)	16,737 (H27)	20,000 (R2)	19,347	18,002 (R2.10)	B2
	新規出店者数(店/年)	12 (H27)	12 (H28~R2) (平均)	—	22 (H28~R2) (平均)	A

(2) 参考指標

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値	達成状況
便利で暮らしやすいまち	中心市街地の満足度(%)	17 (H20)	27 (R2)	25	78 (R2.10)	A
一歩足を伸ばして楽しめるまち	中心市街地への来街頻度(%)	国道2号~本町通り 63	73	71	52	C
		明石港周辺 27 (H27)	37 (R2)	35	29 (R2.10)	
一歩足を伸ばして楽しめるまち	開店店舗数(店)	平日(金曜日)夜 104	114	112	140	A
		休日(日曜日)昼 202 (H27)	222 (R2)	218	196 (R2.10)	

<達成状況の分類>

A:目標達成 B1:概ね目標達成(基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている)

B2:基準値より改善(基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない) C:基準値に及ばない

※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。

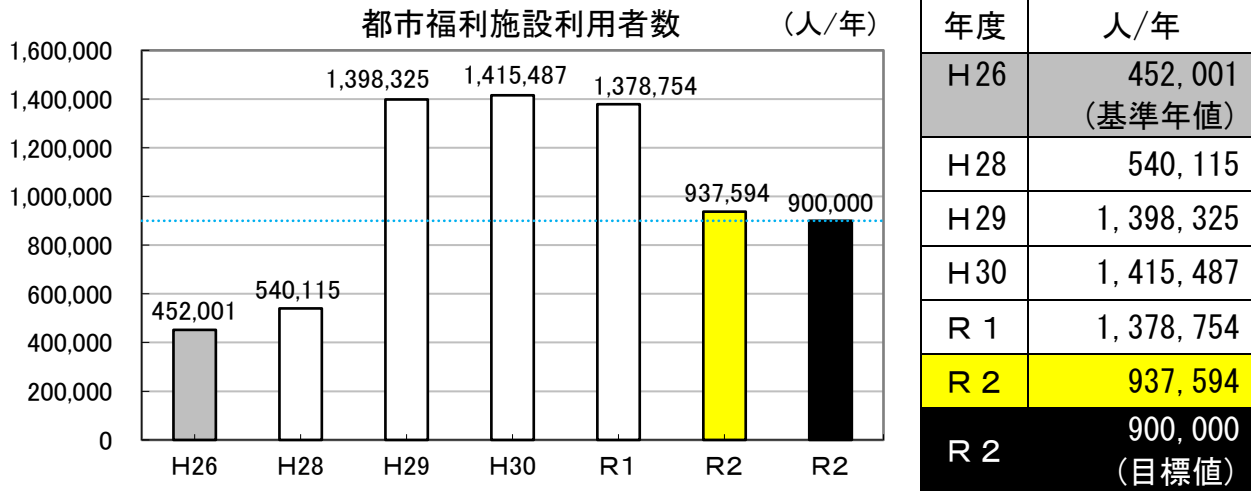
(注:小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい)

2 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「都市福利施設利用者数」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方 認定基本計画 P62～P67 参照

●調査結果と分析



※調査方法:都市福利施設の年間利用者数を調査

※調査日:令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

※調査主体:明石市

※調査対象:都市福利施設(あかし総合窓口・あかしこども広場・あかし市民図書館)の利用者

<都市福利施設ごとの利用者数>

(単位:人/年)

	平成26年度 (基準年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (最終年度)
①あかし総合窓口	63,445	70,332	130,347	151,354	152,807	144,750
②あかしこども広場	38,304	63,609	327,094	358,959	320,288	145,171
③あかし市民図書館	350,252	406,174	940,884	905,174	905,659	647,673
合計	452,001	540,115	1,398,325	1,415,487	1,378,754	937,594

<分析内容>

都市福利施設の整備は予定どおり平成28年度末に完了し、都整備から4年が経過しました。都市福利施設オープンから4年連続目標値を上回り、都市福利施設を利用するために来街する人の増加により、中心市街地のにぎわい創出に大きな効果を生み出しました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、来街者の減少、運営時間の縮小及び休止を余儀なくされ、前年度と比べてすべての施設で利用者が減少し、全体で32.0%減少しましたが、各施設が工夫を凝らした運営を行った結果、目標値を上回りました。

① あかし総合窓口

アクセスのしやすさ、取扱業務の拡充、認知度の向上などから、令和元年度の取扱件数は平成28年度から4年連続増加、移転前と比べて2.4倍となり、事業目標値とほぼ同水準まで増加しました。令和2年度は通常どおり開庁しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により来街者の減少などにより取扱件数が前年度と比べて5.3%減少しました。

② あかしこども広場

本市のまちづくり方針である「こどもを核としたまちづくり」の核施設として、中高生世代まで誰もが利用できる機能を整備した結果、令和元年度の利用者数は、事業目標値の3.3倍となりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出により、多くの施設において、運営時間の縮小及び休止を余儀なくされ、利用者数が前年度と比べて54.7%減少しましたが、事業目標値を上回りました。

③ あかし市民図書館

アクセスのしやすさ、蔵書数の増加、開館時間の拡大などから、令和元年度の来館者数は移転前の2.6倍、事業目標値の1.4倍となりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出により、閉館時間の前倒し、臨時休館などを余儀なくされ、来館者数が前年度と比べて25.5%減少し、事業目標値を僅かに下回りました。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① あかし総合窓口整備事業(明石市)

事業実施期間	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に市民の利用頻度が高い証明発行や保険、福祉等の行政窓口機能の整備・運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 153,445人/年 最新値 144,750人/年 目標未達成 (基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 135,445人/年は超えている)
達成出来なかった理由	通常どおり開庁していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により来所者が減少し、郵送による手続が増加したため。
計画終了後の状況及び事業効果	平成29年1月にオープンした。明石駅前に利用頻度の高い行政窓口機能を整備することで、利便性が向上し、幅広い世代の市民が行政窓口に行く際の負担を軽減することができた。多くの市民が利用することにより、中心市街地のにぎわいに寄与している。
事業の今後	平成28年度事業完了。引き続き、アクセスのしやすさ、取扱業務の多さ、開所時間の長さなどを積極的に周知するだけでなく、取扱業務の見直しを行い、取扱件数の増加を図っていく。

② あかしこども広場整備事業(明石市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に子どもを中心とした多様な交流の創出や、健全な居場所となりまちを元気にするための拠点及び次世代の育成と子育て支援を促進するためのこども健やかひろばを整備し、プレイルームや子育て関連イベント等の運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成30年度～令和2年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 98,304 人/年 最新値 145,171 人/年 目標達成
達成した理由	新型コロナウイルス感染症の影響により来街者が減少したことに加え、緊急事態宣言の発出に伴い、イベント、運営日時の縮小、休止などを余儀なくされたが、その中でも親子交流スペース「ハレハレ」では、1日の利用枠及び定員を減らし、対象者を明石市民に限定し、消毒時間を確保したり、中高生世代交流施設「AKASHI ユーススペース」では、「音楽スタジオ」の定員を1名、「ダンススタジオ」の定員を3名にするなどコロナ対策を徹底した上で、こどもの居場所を確保できるよう工夫した運営を行ったため。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 29 年 4 月に全面オープンした。「こども健康センター」、親子交流スペース「ハレハレ」、中高生世代交流施設「AKASHI ユーススペース」など、幅広いこども世代が利用している。「こどもを核としたまちづくり」の拠点として多くの子育て世帯が来所し、中心市街地のにぎわいに寄与している。
事業の今後	平成 28 年度ハード部門完了。ソフト部門の運営において、中高生の居場所作り、子育て関連イベントなどを実施し、利用者数の増加を図っていく。

③ あかし市民図書館整備事業(明石市)

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に「本のまち」という新たな明石の魅力を発信する拠点として市民図書館を整備し、市民等が憩う滞在型図書館として運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 650,252 人/年 最新値 647,673 人/年 目標未達成 (基準値から事業目標値までの幅の 8 割ライン 590,252 人/年は超えている)
達成出来なかった理由	新型コロナウイルス感染症の影響により来街者が減少したことに加え、緊急事態宣言に伴い、臨時休館、部分開館、閉館時間の前倒しなどを余儀なくされ、開館日及び時間が大幅に減少したため。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 29 年 1 月にオープンした。旧図書館と比べて、アクセスがしやすくなり、蔵書数の増加、開館時間の拡大などにより、幅広い世代の人が来館し、中心市街地のにぎわいの中心となっている。
事業の今後	平成 28 年度事業完了。引き続き、子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、だれでも」手を伸ばせば本に届く「本のまち明石」の実現に向け、「明石市本のまち基金」の設立、計画終了後の令和 3 年 4 月から開館時間を早めるなどさらなる利便性の向上を図り、ソフト事業である「本のまち明石関連事業」を推進し、来館者及び貸出冊数の増加を図っていく。

●今後の対策

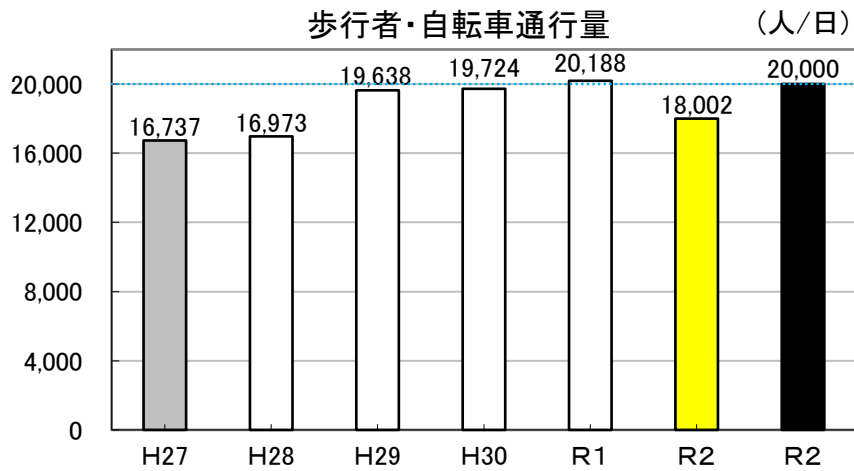
利便性の高い明石駅前に市民のニーズが特に高かった都市福利施設を整備することにより、多くの来街者を呼び込むことができましたが、令和2年度は目標値を上回ったものの新型コロナウイルス感染症の影響によりすべての都市福利施設で利用者が減少しました。

今後は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、イベント開催方法の変更、運営内容の改善、積極的な情報発信を行うなどポストコロナを見据えた運営を行い、都市福利施設利用者数の回復及びさらなる増加を図っていきます。

(2) 「歩行者・自転車通行量」(目標の達成状況【B2】)

※目標値設定の考え方 認定基本計画 P69～P75 参照

●調査結果と分析



年度	人/日
H27	16,737 (基準年値)
H28	16,973
H29	19,638
H30	19,724
R1	20,188
R2	18,002
R2	20,000 (目標値)

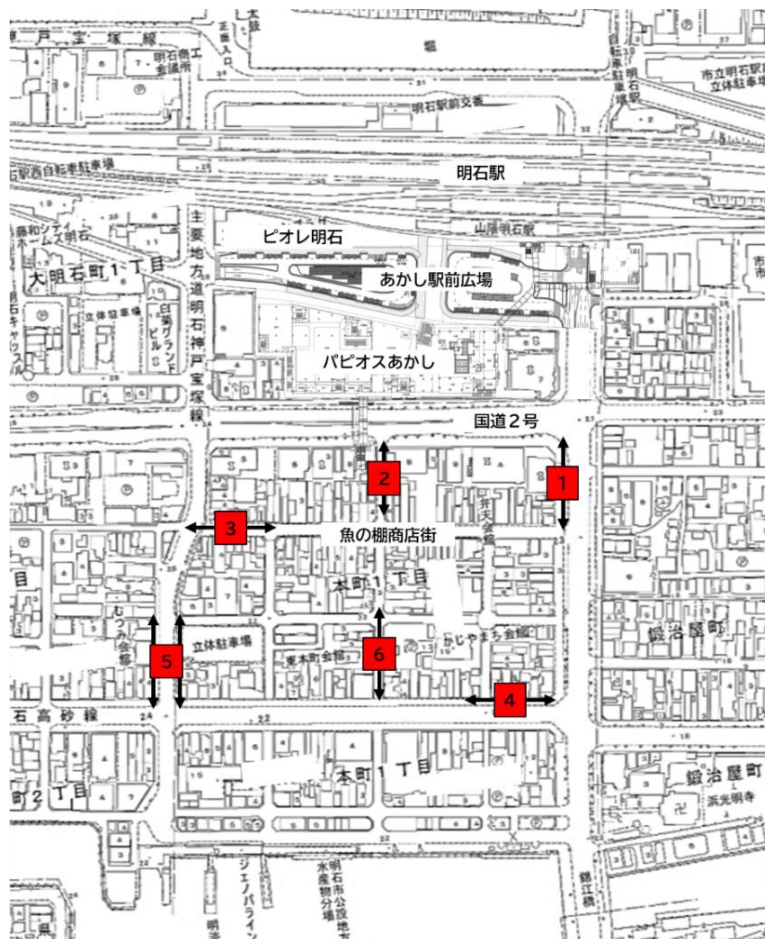
※調査方法:毎年10月の休日及び平日の10時から18時まで中心市街地に設定した6地点での歩行者・自転車通行量を調査

※調査日:令和2年10月18日(日曜日)、10月19日(月曜日)

※調査主体:明石市

※調査対象:中心市街地6地点(国道2号南側商店街区域)における歩行者・自転車通行量

<調査地点図>



＜調査地点ごとの歩行者・自転車通行量＞

(単位:人)

調査地点	平成 27 年度 (基準年度)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)	令和元年度 (4 年目)	令和 2 年度 (最終年度)
①銀座通り西	6,086	7,052	5,433	5,764	5,214	4,250
②錦通り	1,342	1,359	4,561	4,988	4,819	4,710
③魚の棚商店街西口	4,619	3,742	4,818	4,078	5,054	4,412
④本町北	1,259	1,337	1,101	1,046	1,064	920
⑤玉沢ビル前	2,677	2,583	2,457	2,546	2,601	2,396
⑥錦通り南	755	900	1,268	1,303	1,438	1,314
合計	16,737	16,973	19,637	19,724	20,188	18,002

＜分析内容＞

「歩行者・自転車通行量」増加に向けたハード事業は、概ね予定どおり完了しました。「明石駅前南地区第一種市街地再開発事業」完了後の平成 29 年度以降、来街者の増加に伴い、「歩行者・自転車通行量」も 4 年連続増加し、5 年連続基準値を上回り、令和元年度に目標値を上回りました。

再開発完了後、明石駅から「パピオスあかし」の「あかし市民広場」を通り抜け、「国道 2 号立体横断歩行者道路」を通り、国道 2 号南側の商店街に雨に濡れることなく通行できるようになりました。その結果、「パピオスあかし」の整備に伴い、増加した来街者が、国道 2 号南側の商店街区域へ訪れるようになり、歩行者・自転車通行量が増加しました。

「国道 2 号立体横断歩行者道路」「ほんまち三白館」の整備により「②錦通り」の通行量が基準値の 3.5 倍、「⑥錦通り南」の通行量が 1.7 倍と大きく増加しました。一方で来街者の動線が変化したことに伴い、「①銀座通り西」の通行量が減少するなど、全体としては増加しているものの基準値を下回っている地点があります。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と比べてすべての調査地点で歩行者が減少し、全体で 10.8%減少しました。調査時期、調査日の天候に左右されるところがありますが、近隣他市と比べると減少幅は小さく、コロナ禍においても来街者の落ち込みが少なかったと考えています。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 明石駅前南地区第一種市街地再開発事業(明石駅前南地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成 23 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	明石駅前において耐震性と床の有効活用に課題を残す建築物を共同化し、商業や行政サービス施設、高層住宅からなる中心市街地の拠点となる複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省)(平成23年度～平成28年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値－ 「明石駅南側出入口」の通行量は、令和 2 年度 25,232 人で再開発ビル整備完了前の平成 28 年度 15,354 人と比べて 1.6 倍となった。
達成した(出来なかった)理由	集客効果が高く、中心市街地の核施設として、明石駅から国道 2 号南側の商店街を繋ぎ、中心市街地の活性化及び回遊性の向上の役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 29 年 4 月に全面オープンした。商業施設、公共施設、医療モール及び住宅棟が入居する複合ビルである「パピオスあかし」が整備されたことにより、幅広い世代の多くの人々が来街しており、商業施設には空き店舗がない状態が続いている。国道 2 号南側への回遊性が向上し、中心市街地南側のにぎわいの創出にも寄与している。
事業の今後	平成 28 年度事業完了

② 国道2号立体横断歩行者道路整備事業(明石市)

事業実施期間	平成20年度～平成28年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」から国道2号南側までの国道2号を横断する立体横断デッキを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路)および一体の効果促進事業)(国土交通省)(平成25年度～平成28年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値－ 「国道2号立体横断歩行者道路」の通行量は、令和2年度4,611人で再開発中の平成27年度113人と比べて40.8倍となった。
達成した(出来なかった)理由	「パピオスあかし」と国道2号南側の商店街を繋ぎ、中心市街地の回遊性向上の役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成28年12月に供用開始した。老朽化した横断歩道橋を撤去し、幅員を1.5mから5mに拡大し、エレベーター及び屋根を設置した。明石駅から雨に濡れることなく「パピオスあかし」を通して「魚の棚商店街」など、国道2号南側の商店街まで行くことができるようになり、国道2号南側の通行量が増加するなど回遊性の向上に寄与している。
事業の今後	平成28年度事業完了

③ 駅前高層住宅整備事業(民間事業者)

事業実施期間	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	明石駅前再開発ビル内に都市型高層住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値+170人/日 最新値－(個別に算出することが困難なため) 駅前高層住宅がある「大明石町1丁目の人口」は、令和3年1月1,549人(749世帯)と住宅整備前の平成29年1月1,097人(536世帯)から1.4倍となった。
達成した(出来なかった)理由	転入した住民による新たなにぎわいが創出されている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成29年3月に入居開始となった。総戸数216戸のうち、販売対象戸数199戸が即日完売となり、本事業により、新たな住民による通行量の増加及び回遊性の創出に寄与している。
事業の今後	平成28年度事業完了

④ あかし市民広場整備事業(明石市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に市民が集い、賑わい、憩う空間で、情報発信の拠点となるイベント広場空間を整備し、市内の観光等の情報発信やイベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成30年度～令和 2 年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値+220 人/日 最新値-(個別に算出することが困難なため) 「あかし市民広場の 1 日当たりの通行量」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度 17,046 人と令和元年度 22,365 人と比べて 23.8%減少した。
達成した(出来なかった)理由	イベントを開催することにより市民広場を訪れる人が増加し、市民広場を訪れた人が、国道 2 号南側にアクセスしやすい動線となっており、回遊性向上の役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 28 年 12 月にオープンした。令和 2 年度のイベント利用率は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時利用を中止したため、平日 47%休日 47%平均 46%と前年度と比べて大きく減少しました。また、新型コロナウイルス感染症に関する情報発信を目的に 6 月に「新型コロナウイルス感染症の市民向け情報拠点」を開設しました。集客効果が高く、情報発信機能が強く、イベント開催日以外も憩いの場として活用され、多くの来街者が「あかし市民広場」を利用していることから、中心市街地活性化のにぎわいの向上に寄与している。
事業の今後	平成 28 年度にハード部門完了。ソフト部門の運営において、多くのイベントを開催し、来街者を呼び込むだけでなく、情報発信拠点として活用を図っていく。

⑤ 明石まちなかバル事業(明石まちなかバル実行委員会)

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街が一体となり各店連携しながら、販売促進を兼ねた事業として、飲食店を中心としたバル事業を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値+300 人/日 最新値-(個別に算出することが困難なため) 中心市街地の主要な商店街である「③魚の棚商店街西口の通行量」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度 4,412 人と平成 27 年度の基準値 4,619 人と比べて 4.5%減少した。
達成した(出来なかった)理由	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、年 2 回開催していた本イベントを初めて中止したため。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 23 年から開催し、合計 17 回開催している。令和 2 年 6、11 月開催分は中止し、令和 3 年 6 月開催分も中止が確定している。参加店舗数及びチケット販売額は当初から増加・維持されており、中心市街地の恒例イベントとして、商店街の魅力を発信し、毎回多くの人を訪れている。国道 2 号南側の商店街の魅力を発見し、再度訪れる人がいることから、通行量の増加及び回遊性の向上に寄与している。
事業の今後	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、事業の在り方、開催方法などを検討した上で開催に向けた準備を進め、バル当日だけでなく平時の来街を促し、来街目的の創出及び回遊性の向上を図っていく。

⑥ ほんまち三白館活用事業(本町商店街振興組合・各商店街)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	大衆演劇場に改修されたほんまち三白館において、大衆演劇の公演や近隣店舗との提携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値+600人/日 最新値- (個別に算出することが困難なため) 「ほんまち三白館」に南下途中の道である「⑥錦通り南の通行量」は、令和2年度1,314人と平成27年度の基準値755人と比べて1.7倍となった。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地の南側に位置し、ほぼ毎日公演していることから国道2号南側の通行量の増加及び回遊性の向上の役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成27年12月にオープンした。毎月劇団が入れ替わり、1日2回ほぼ毎日公演している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一時期公演を中止していたが、来館者数はオープン以来堅調に推移している。中心市街地の南に位置しており、集客効果があることから、通行量の増加及び回遊性の向上に寄与している。
事業の今後	中心市街地の南に位置し、市民や文化の交流拠点となっており、今後も集客効果を周辺地域に波及できる取組を推進し、回遊性の向上を図っていく。

⑦ 明石海峡クルーズ事業(株淡路ジェノバライン)

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	淡路ジェノバラインによる明石港～明石海峡大橋～岩屋港の海と周辺資源を活かしたミニクルーズ事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値+75人/日 最新値- (個別に算出することが困難なため) 明石港の乗船場である「明石乗り場」に南下する道の途中である「⑤玉沢ビル前の通行量」は、令和2年度2,396人と平成27年度の基準値2,677人と比べて10.5%減少した。
達成した(出来なかった)理由	新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少及び各クルーズの中止に加え、「国道2号立体横断歩行者道路」の整備により来街者の動線が変化したため。
計画終了後の状況及び事業効果	これまで「ミニクルーズ」だけでなく、「花火観覧クルーズ」「小豆島クルーズ」「直島クルーズ」などを実施した。定期的に明石港を利用する人が一定数おり、中心市街地の南側を訪れる人の維持に寄与している。
事業の今後	中心市街地の南に位置し、海の資源をいかして利用者数が増える取組を推進し、通行量及び回遊性の向上を図っていく。

●今後の対策

再開活事業の完了により、明石駅から「パピオスあかし」の「あかし市民広場」を通り抜け、「国道2号立体横断歩行者道路」を通り、国道2号南側の商店街区域に雨に濡れることなく通行できるようになりました。

来街者の増加及び動線の整備により全体的に通行量が増加しましたが、来街者の動線が変化したことに伴い、通行量が増加した地点と減少した地点があるなど、回遊性のさらなる向上が課題となっています。

今後は、引き続き「パピオスあかし」を目的とした来街者を「パピオスあかし」にとどめることなく、国道2号南側の商店街に誘導する必要があることから、「ほんまち三白館」「魚の棚商店街」の集客効果を生かすだけでなく、商店街が積極的に情報発信を行い、「あかし市民広場」の

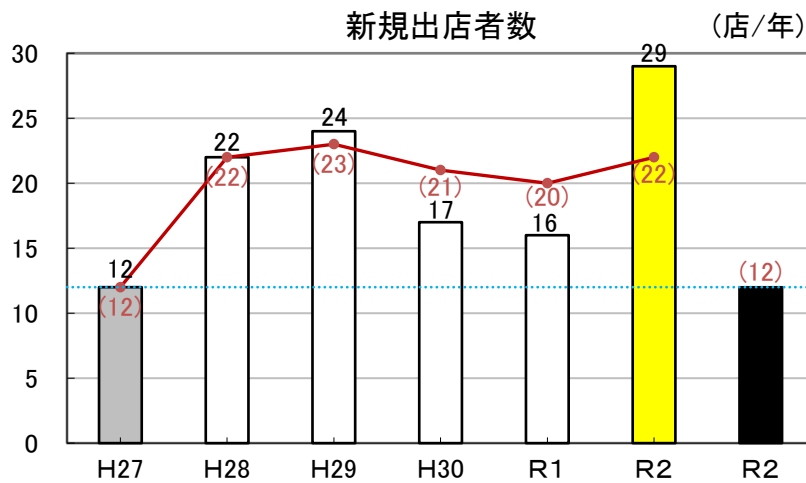
活用や商店街同士の連携を積極的に行い、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて「明石まちなかバル」「明石半夏生たこまつり」などのイベントを開催し、国道2号南側の商店街を訪れ、回遊性したくなるような目的を創出するなど、さらなる商店街の魅力を向上させるため、官民協働で取り組み、来街者を増加させ、歩行者・自転車通行量の増加を図っていきます。

(3) 「新規出店者数」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方 認定基本計画 P77～P81 参照

●調査結果と分析

※調査方法:毎年10月ごろに店舗を実地視察し、前年度からの店舗の



年度	店/年(平均)
H27	12(12) (基準年値)
H28	22(22)
H29	24(23)
H30	17(21)
R1	16(20)
R2	29(22)
R2	(12) (目標値)

変化状況を調査

※調査日:令和元年10月23日(水曜日)から10月25日(金曜日)まで

※調査主体:明石市

※調査対象:国道2号より南側の商店街区域の代表的な7つの通りに面した店舗

<調査地点図>



＜調査地点ごとの新規出店者数＞

(単位:店)

調査地点	平成 27 年度 (基準年度)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)	令和元年度 (4 年目)	令和 2 年度 (5 年目)
①国道 2 号沿い	1	5	5	5	1	9
②魚の棚	4	6	4	3	9	7
③ほんまち	2	3	4	0	1	2
④明石港	0	1	0	0	0	1
⑤明淡	2	2	0	1	1	3
⑥中央	2	1	3	2	0	1
⑦銀座	1	4	8	6	4	6
合計(単年度)	12	22	24	17	16	29
合計(累計平均)	—	22	23	21	20	22

＜分析内容＞

「パピオスあかし」オープンに伴う来街者の増加及び国道 2 号南側の歩行環境整備などによる通行量の増加により、商業環境が向上しました。

商業環境の向上により、各商店街で継続的に新規出店があり、5 年連続目標値を上回りました。

令和 2 年度は、令和元年 11 月から令和 2 年 10 月までの新規出店数の調査であるため、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の新規出店も含んでいますが、調査したすべての通りで新規出店があり、計画期間中最大の新規出店となりました。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 市道明石中央 42 号線ほか歩行環境整備(明石市)

事業実施期間	平成 27 年度～平成 30 年度【済】 (認定基本計画:平成 27 年度～令和 2 年度)
事業概要	本町地区を中心とした商店街及び明石港付近における道路の美装化及び排水機能の改善を行う。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金(道路事業)(国土交通省)(平成29年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 1 店/年 最新値—(個別に算出することが困難なため) 市道明石中央 42 号線沿いの「⑥中央」の令和 2 年度の新規出店者数は 1 件あった。
達成した理由	良好な歩行環境の確保と排水機能を改善した快適な歩道により、来街者の増加及び商店街の商業環境の向上を図る役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 29 年度から市道明石中央 37 号線(魚の棚商店街)の歩道の舗装工事を実施し、平成 30 年度中に完了した。また、平成 30 年度に市道明石中央 42 号線の歩道の舗装工事を実施し、同年度に完了した。「ほんまち三白館」整備と併せて歩行環境整備を行ったことにより、中心市街地の南側に訪れやすくなるなど商業環境の向上に寄与している。
事業の今後	平成 30 年度事業完了

② 景観向上施策推進事業(各商店街・明石市)

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	景観資源として重要な商店街や明石駅前周辺において、景観づくりの取組を進めるほか、都市景観形成地区指定を目指した取組の支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成30年度～令和2年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 0.4 店/年 最新値－(個別に算出することが困難なため) 景観ガイドラインを策定した「③ほんまち商店街」及び「⑤明淡商店街」の令和2年度の新規出店者数の合計は5件あった。
達成した理由	各商店街における景観づくりの取組を推進し、魅力的な街並みを創造し、商業環境の向上を図る役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 26 年度に「ほんまち商店街まちなみ景観ガイドライン」を策定し、平成 30 年度に「明淡通り景観ガイドライン」を策定し、運用している。各商店街で統一した景観にすることで商店街の魅力を向上させ、訪れる人の増加及び出店意欲の向上など商業環境の向上に寄与している。
事業の今後	各商店街の特長を生かし、商店街の魅力を向上させるため、景観ガイドラインの策定を推進するなど景観向上施策を推進していく。

③ 春旬祭事業(春旬祭実行委員会)

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	明石に春を告げる魚であるイカナゴ漁の解禁に合わせ、「魚を楽しむまち」をテーマとして魚の棚商店街を中心に各商店街が連携し、明石らしいお祭りを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成30年度～令和2年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 1 店/年(その他イベントとの合計) 最新値－(商店街全体のイベントのため個別に算出することが困難なため)
達成した(出来なかった)理由	各商店街の店舗にQRコードを設置し、イベントで店舗を回った人に商店街の魅力を感じさせ、引き続き訪れようと思える機会を創出させる役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 14 年から開催し、平成 31 年まで計 16 回開催していた。イカナゴの新仔漁の不漁が続き、イカナゴ漁の解禁日が不確定な状況が続いていることから、令和元年度から1日だけのイベントである「春旬祭」を休止し、各商店街の魅力の周知と回遊性の向上を図るため、令和2年2月21日から3月15日まで「スマホで探そう！明石なるほどクイズラリー！」を、令和3年2月21日から3月15日まで「スマホで見つけよう！明石のキーワード！」を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響がある中、近隣小中学校へイベントチラシを配布するなど広報を強化した結果、景品の応募者が大幅に増加した。ファミリー層の応募が多く、商店街の魅力の周知に寄与している。
事業の今後	イカナゴの新仔漁の期間が短い中、QRコードを使った回遊イベントの費用対効果などを分析し、令和3年度以降の開催方法について、検討を進める。

④ 明淡線自転車駐車場整備事業(明石市)

事業実施期間	平成 27 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	歩道拡幅に合わせた路上でのラック式駐輪施設の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 1 店／年(④⑤の合計) 最新値 4 店／年 「④明石港」及び「⑤明淡商店街」の令和 2 年度の新規出店者数の合計は 4 件あった。
達成した理由	駐車場を整備し、自転車で訪れやすくすることにより、来街者の増加及び回遊性を向上させる役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	道路改良工事に併せ、歩道にラック式駐輪施設を整備した。自転車での来街者を増加させ、駐輪施設を拠点とし、商店街等の利用者の増加、回遊性及び商業環境の向上に寄与している
事業の今後	平成 28 年度事業完了

⑤ 明石港駐輪場改修事業(明石市)

事業実施期間	平成 28 年度【済】
事業概要	高速船乗り場に隣接する駐輪場の環境改善を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 1 店／年(④⑤の合計) 最新値 4 店／年 「④明石港」及び「⑤明淡商店街」の令和 2 年度の新規出店者数の合計は 4 件あった。
達成した理由	駐車場を整備し、自転車で訪れやすくすることにより、来街者の増加及び回遊性を向上させる役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	明石港無料駐輪場増設工事を実施し、駐輪スペースを 290 台から 450 台に 160 台分増加させ、転落防止用フェンスの設置工事を実施した。 明石港に寄港する高速船の利用者だけでなく、明石港やその周辺の商店街等を回遊する来街者が利用できる駐輪場として改修することで、来街者を中心市街地の南側へ誘導させるなど回遊性及び商業環境の向上に寄与している。
事業の今後	平成 28 年度事業完了

⑥ 中心市街地の空間有効活用事業(中心市街地活性化協議会商業活性化分科会)

事業実施期間	平成 23 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	事業者や住民などが主体になって、中心市街地内にある未利用地や公共空間において、イベントなどの有効活用を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成30年度～令和 2 年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 0.4 店／年 最新値－(中心市街地全体に関わる事業で個別に算出することが困難なため)
達成した(出来なかった)理由	中心市街地内にある空き地、空き家などを有効活用し、新たな来街目的の創出と中心市街地の魅力を伝える役割を担っている。
計画終了後の状況及び事業効果	既に商店街独自で商店街の空きスペースでイベントや出店を募るなど中心市街地の空間を有効活用しており、新たな出店意欲の向上に寄与している。
事業の今後	実施主体である中心市街地活性化協議会商業活性化分科会が解散したことから、終了となったが、今後、必要に応じて蓄積したノウハウを共有し、中心市街地の空間有効活用を図っていく。

●今後の対策

「パピオスあかし」オープン以降の来街者の増加、歩行環境整備などの商業環境の向上により、商店街を訪れる人及び出店者側の出店意欲が向上しています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の影響による商業環境の悪化のため、閉店増加の懸念や新規出店の見通しが不透明となっていますが、中心市街地のさらなるにぎわいの向上を図るためにも、商業環境を向上させ、継続して新規出店を維持、増加させることが重要であることから、商店街の情報を積極的に発信し、商店街の価値を高め、来街者を増やし、新規出店の維持、増加を図っていきます。